

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年6月15日

【評価実施概要】

事業所番号	0873100986		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	グループホーム なのはな		
所在地	茨城県水戸市鯉淵町4708-41 (電話) 029-257-0601		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成21年2月5日	評価確定日	平成21年6月12日

【情報提供票より】 (平成21年1月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年2月12日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	20 人	常勤	20人, 非常勤 人, 常勤換算 4.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,500 円	その他の経費(月額)	5,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成21年1月19日現在)

利用者人数	27名	男性	14名	女性	13名
要介護1	8名	要介護2	13名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 77.4 歳	最低	62 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	美野里病院、御茶園歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員は法人の理念を共有し「やさしく、しんせつ、ていねいに」の意義を追求しながら実践を振り返るとともに、その人らしく生活ができるよう連携を図りながら支援をしている。
 設置法人が運営している病院や福祉施設で利用者の健康管理や緊急時の対応など適切な支援が受けられることから利用者や家族は安心して居る。
 地域の農地を借りて野菜を作ったり文化祭に展示する作品づくりなどを通して職員と利用者の暖かな関係を築きながら張り合いのある暮らしをしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 理念については、地域のなかでの暮らしを支える役割を理解し地域交流の拡充を図っているが、地域密着型サービスとしての理念に見直すまでには至っていない。 運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。 金銭管理は預かり証を作成するとともに出納を明確にし家族に報告している。 職員の研修は法人内外の研修に参加できる体制を整備している。 多機能性を活かして法人病院への通院支援をしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は自己評価及び外部評価の意義や目的を理解し、管理者と全職員で意見交換をしながら自己評価を作成している。 外部評価結果を職員に周知し意見を求めたり、運営推進会議に報告するとともに利用者や家族、来訪者に公表するなどしてサービスの質の向上に活かしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、外部評価結果や運営状況の報告などを行うとともに自治会活動に参加できるよう働きかけている。 会議終了後に議事の結果報告をしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見や苦情相談受付窓口を設置するとともに重要事項説明書に第三者機関を明記し契約時に説明している。 玄関にアンケート用紙を準備し意見を汲みあげられるよう配慮している。 運営推進会議で家族の代表から出た意見を運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームの納涼祭や運動会に地域の人々や高齢者クラブの人々を招待している。 また、季節の行事に子ども会や小学校の生徒が訪問して交流を図っている。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「やさしく、しんせつ、ていねいに」を共有し、利用者が住み慣れた地域で生活ができるよう交流しているが、地域密着型サービスとしての理念に見直すまでには至っていない。	○	運営者は地域密着型サービスとしての理念を管理者や職員と話し合い作成することを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念の意義を職員で理解するとともに日々の支援を振り返り、利用者が落ち着いた生活ができるよう支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの納涼祭や運動会に地域の人々や高齢者クラブの人々を招待している。 また、季節の行事に子ども会や小学校の生徒が訪問して交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価及び外部評価の意義や目的を理解し、管理者と全職員で意見交換をしながら自己評価を作成している。 外部評価結果を職員に周知し意見を求めたり、運営推進会議に報告するとともに利用者や家族、来訪者に公表するなどしてサービスの質の向上に活かしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、外部評価結果や運営状況の報告などを行うとともに自治会活動に参加できるよう働きかけている。 会議終了後に議事の結果報告をしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市担当者と行き来し運営上の相談やホームの空き状況などを報告している。 介護保険相談員が訪れ利用者や職員との相談に対応している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理を報告している。 また、必要に応じて利用者の状態を電話で報告するほか、なのはな便りを送付しホーム行事を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情相談受付窓口を設置するとともに重要事項説明書に第三者機関を明記し、契約時に説明している。 また、玄関にアンケート用紙を準備し意見を汲みあげられるよう配慮している。 運営推進会議で家族の代表から出た意見を運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職防止のため職員の勤務体制に配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の段階に応じた研修が受講できるよう体制や環境づくりをしている。 職員は研修受講後報告書を提出するとともにミーティング時に報告して内容を全職員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡協議会に加入し、各種研修会に参加するとともに同業者間で交流している。 地域の文化祭を通して同業者と交流の機会をつくるとともに、同業者が行っている陶芸を一緒にできるよう働きかけるなどサービスの質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に利用者や家族にホーム見学や宿泊体験をしてもらい雰囲気に馴染めるよう配慮している。 また、利用者の生活歴や心身状態などを聞き取り情報や要望を把握し納得を得たうえで利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から農作物の作付けや育て方、絵画、裁縫などを学び支え合う関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活のなかで利用者の希望や意向の把握に努めるとともに、家族の面会時に意向を確認し個人ファイルに記録している。 また、病院から直接利用の場合は看護サマリーや診療情報提供書から情報を得ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	週1回のミーティング時に利用者一人ひとりの気づきや課題について意見交換をするとともに、利用者や家族の意向を踏まえ了承を得たうえで介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヵ月に1回見直している。 また、申し送りノートや週1回のミーティングで利用者の暮らし振りや状態を共有するとともに、状態に変化が生じた場合には現状に即した介護計画に見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営母体の病院に通院支援をしている。 利用者や家族の要望にそって宿泊支援など柔軟に対応している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の意向を確認し、家族の協力を得て今までのかかりつけ医に継続して受診ができるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合や終末期の対応方針を決め、利用時に「重度化及び見取りに関する指針」について説明するとともに同意を得ている。 職員は必要に応じて医師や家族と情報交換をしているが、方針の共有やマニュアルを作成するまでには至っていない。	○	全職員で方針を共有できるようマニュアルを作成することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの誇りを尊重した言葉かけや対応に心がけている。 個人情報の取り扱いは利用契約書に基づいて説明し同意を得るとともに記録等を事務所に保管し施錠している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりのペースに合わせて生活ができるよう希望や意向を把握して支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は会話を楽しみながら一緒に食事をとり食後は利用者の負担にならないよう配慮しながら、利用者が当番制で食器洗いや後片づけなどを行っている。 ホーム行事の際は利用者と職員で話し合っ て献立を決めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週2回9時から午前中と決っており、利用者の希望やタイミングに合わせた支援をするまでには至っていない。	○	利用者の入浴に関する希望を配慮しながら入浴が楽しみになるよう支援することを期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を活かし、カラオケや手芸、習字、掃除などの楽しみごとを支援している。 畑を借りて野菜を作ったり、文化祭に展示する作品づくりなどを通して張り合いのある暮らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内での日光浴や近隣の公園へ散歩に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事務室から玄関が死角となるため利用者の安全を優先し施錠している。 利用者は自分で開錠し自由に外出している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者や職員が安全に避難できる方法を身につけるため年2回避難訓練を実施している。 地域の協力を得た避難訓練や夜間を想定した避難訓練、災害時に備えて食料品や飲料水を確保するまでには至っていない。	○	地域の人々に参加と協力を求めたり、夜間を想定した避難訓練を実施するとともに災害時に備えて食糧品や飲料水の確保が望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は業者の作成した献立や食材を利用するとともに自家菜園で採れた旬の野菜などを取り入れるなど、栄養バランスに配慮した食事を提供している。 食事量や水分摂取量を記録したり定期的に体重測定をして健康状態を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共用空間に季節の花や利用者の作品を飾り、生活感や季節を感じられるよう工夫するとともに居間や台所は中庭からの採光により清潔で暖かな雰囲気になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は中庭から十分な採光が取れるとともに、利用者が居心地よく過ごせるよう家族に働きかけ思い出の写真や仏壇などを置き、安心して生活ができるよう配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。